

令和元年度の献血実績の評価について

1. 令和元年度実績の評価

- 令和元年度においても、多くの方の御協力により、輸血用血液製剤及び原料血漿の安定供給に必要な血液量を確保することができた。

- 令和元年度における延べ献血者数は、対前年度約 19 万千人の増（4.0%増）の 492.6 万人、献血率は前年度 0.3 ポイント増の 5.8%となった。
（参考）
 - ・ 輸血用血液製剤の供給本数は、対前年度で約 0.8%増加
 - ・ 原料血漿の国内製造販売業者等への配分量（在庫取崩量を除く）は、免疫グロブリン製剤等の供給量の増加により、対前年度で約 15.2%増加

- 若年層の献血者数について、10 年で約 35%減少したが、令和元年度において、延べ献血者数は対前年度約 2 万人増（1.2%増）となった。この要因として、学校献血の推進に加え、献血セミナーの実施や高校生向け副読本（けんけつ HOP STEP JUMP）、大学生等への啓発ポスターの配布など、厚生労働省、都道府県、日本赤十字社による各種普及啓発や、平成 29 年度から実施している年代別献血者数の目標設定とその進捗管理が影響したと考えられる。

2. 令和 3 年度献血推進計画策定にあたっての方向性（案）

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血者数及び献血率の増加を図るための各種取組について、引き続き、重点的に推進する必要がある。

- 令和元年度の年齢別献血率によると、18 歳では 8.1%、19 歳では 7.5%と 10 代後半で比較的高い献血率を示しているが、20 代半ばまで献血率が減少し、30 代半ばごろまでは横ばいとなる結果となった。

- これらを踏まえ、令和 3 年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
 - ① 10 代については、献血者数及び献血率が改善傾向にあることを踏まえ、引き続き、学校献血や各種普及啓発の実施を通じて、初回献血者の確保を中心とした取組を行う。また、継続的な献血の協力を得られる取組を検討

する。

- ② 20代・30代については、18歳、19歳をピークに30代半ばにかけて減少する傾向が見られることから、仕事や家事等で忙しい方が少しでも献血する機会を確保できるよう、利便性を高めるとともに、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力いただくための取組を検討する。